

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害国際協力セミナーを実施しました（2022/9/24）

テーマ：災害後のシェルターと住宅復興、災害医療の国際協力、避難所での外国人支援
会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2022年9月24日（土）、文部科学省補助金事業「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害国際協力セミナーを東北大学災害科学国際研究所で実施し、プログラム履修生13名（医療従事者、消防職員など）が受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が全体進行、江川新一教授（同分野）、マリ・エリザベス准教授（国際研究推進オフィス）が講師を務めました。

ふだん病院や消防署、役場などに勤務しているプログラム履修生は、災害後の被災者住環境の変遷（避難所→仮設住宅→恒久住宅）、災害医療の多国間連携など、ふだん従事している医療や救急外の災害の話題に接する機会はほとんどありません。しかし、発災後の住環境やコミュニティ形成が被災者の心と身体に及ぼす影響に係る課題は、時として急性期保健医療よりも大きなウェイトを占めるニーズです。マリ准教授は住宅復興と健康について、日本と他の国を比較しながら講義を行いました。受講生からは「日本の避難所は他国に比し優れているのか、そうでないのか」といった質問や、支援団体の財政的な差が住宅支援に与える影響について様々な意見が出ました。また江川教授が仙台防災枠組、ARCH プロジェクトについて講義し、さらに避難所運営ゲーム（HUG）実習を通じて、避難所内の外国人支援について解説を行いました。



被災者の住環境変遷が
心身に与える影響について学ぶ



国内外の避難所について質問する履修生と
回答するマリ准教授



災害医療の国際協力について解説する
江川教授



避難所運営ゲーム（HUG）で避難所の
レイアウトについて討議する履修生

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）